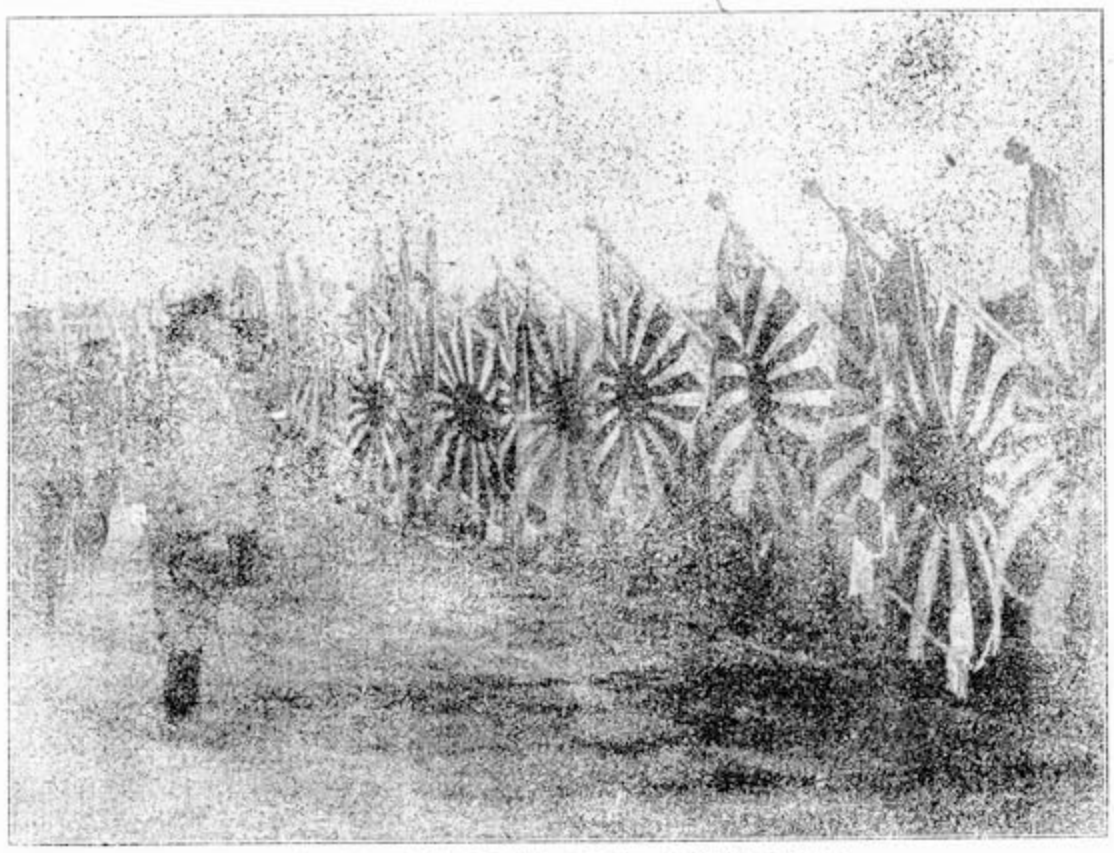
大和錦

昭和九年一月一日印刷
昭和九年一月五日發行
奈良市角振町五十二番地
印刷人　吉村印刷所
奈良市角振町五十二番地
發行人　吉村賢治
奈良市角振町五十二番地
發行所　帝國在郷軍人會奈良支部
電話番號　三九〇番
郵便振替貯金口座番號　大阪三七三〇番

定價　一部金壹錢五厘
廣告料　毎月一回發行　發行部數三萬百部
紙面　一ケ月　六ケ月　十二ケ月
一段　二分ノ一　一円　五円　八円
一段　四分ノ一　七円　一円　一円
一段　八分ノ一　一円　七円　一円
一段　十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　三十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　六十四分ノ一　一円　七円　一円
一段　百二十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　二百五十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　五百十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　千二百四十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　二千四百九十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　四千九百九十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　九千九百八十四分ノ一　一円　七円　一円
一段　十九万九千九百六十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　三十九万九千九百三十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　七十九万九千八百七十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　百五十九万九千七百四十四分ノ一　一円　七円　一円
一段　三百十九万九千四百八十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　六百三十九万九千九百七十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　千二百七十九万九千九百五十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　二千五百五十九万九千九百四分ノ一　一円　七円　一円
一段　五千百九十九万九千九百八分ノ一　一円　七円　一円
一段　一万百三十九万九千九百十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　二万百七十九万九千九百三十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　四万百五十九万九千九百六十四分ノ一　一円　七円　一円
一段　八万百九十九万九千九百二十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　十六万百三十九万九千九百五十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　三十二万百七十九万九千九百九十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　六十四万百五十九万九千九百八十四分ノ一　一円　七円　一円
一段　百二十八万百九十九万九千九百六十八分ノ一　一円　七円　一円
一段　二百五十六万百三十九万九千九百三十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　五百十二万百七十九万九千九百九十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　千二百四十八万百五十九万九千九百四分ノ一　一円　七円　一円
一段　二千四百九十六万百九十九万九千九百八分ノ一　一円　七円　一円
一段　四千九百九十二万百三十九万九千九百十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　九千九百八十四万百七十九万九千九百三十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　十九万九千九百六十八万百五十九万九千九百四分ノ一　一円　七円　一円
一段　三十九万九千九百三十六万百九十九万九千九百八分ノ一　一円　七円　一円
一段　七十九万九千八百七十二万百三十九万九千九百十六分ノ一　一円　七円　一円
一段　百五十九万九千七百四十四万百七十九万九千九百三十二分ノ一　一円　七円　一円
一段　三百十九万九千四百八十八万百五十九万九千九百四分ノ一　一円　七円　一円
一段　六百三十九万九千九百七十六万百九十九万九千九百八分ノ一　一円　七円　一円
一段　千二百七十九万九千九百五十二万百三十九万九千九百十六



（奈良支部總會に於ける聯合支部長の閲兵）

謹啓時下新春御多用ノ折柄益々御精穆ノ段奉慶賀候陳者小職儀今般不圖モ高知歩兵第四十四聯隊長ニ補セラレ候處奈良聯隊區司令部在職中ハ公私共多大ノ御援助御厚情チ忝ウシ衷心御厚禮申上候何卒將來不相變御眷顧賜度先ハ右御挨拶申述度如斯御座候

昭和八年十二月

歩兵大佐　坂本順

年頭の辭

吳海軍人事部長
海軍大佐　松崎伊織

天日と共に、聖德昭々たる昭和の御代も、年を重ねますこと正に九歲、吾等の一人々々迄長くも股肱よと宣へる、皇恩の鴻大無邊なるに只々感激の外無いのであります。此の極りない感激の裡に本紙上諸士と相見え、吾々現役軍人の所懷を述べ在鄕軍人會日新の努力隆昌を祈り得る事は私の最も欣快とする所であります。

顧みるに舊歲日本の勢相は恰も鐵石をも打貫く强い力の權化でありまして、滿洲事變勃發以來、積り積つた國際的壓力を適切に排除し、從來叢雲に蔽はれ勝ちであつた、皇國本然の姿を世界に顯現し、將來日本の前途に耿然たる炬燈を見出すに至つた事は、寔に痛快の至りであります。之れ偏へに擧國一體、官民一心、聖旨を奉體して一絲紊れず、其の任務を完行したる結果に外ならず、洵に同慶の至りに存する次第であります。

「自ら省みて直くんば千萬人と離も吾往かん」、嗚呼此の大精神こそ大和民族の本領にして、只に事ある時のみに止らず、我民族の存する所、永遠無窮に發現すべきものにして、新春に臨みお互に猛省三思したいと存じます。如何にも感禁じ難きものがありますので、二、三所懷を申述べたいと思ひます。

昭和十年には聯盟の實際的離脫と、之に伴ふ南洋委任統治の問題が意外に重大化するやも知れざる事を、今から覺悟して確乎臍を固めて置く必要があります。南洋委任統治群島は一般國民も御承知の如く、其の地理的價値が經濟的發展の礎石として、將又戰略的に所謂南方海の生命線と稱すべきものでありまして、北方大陸に於ける滿洲國が陸の生命線たると同樣、苟且にも他國に指をさされてはならないものであります。此等海陸兩生命線を保守して居てさへ、稍もすれば北の邊境に尨大なる陸、空の軍備を整へ或は太平洋の波濤萬里の彼方には徒らなる挑戰的な、强壓的な海軍の充實を進め、最近は支那を南北兩面から籠絡して、恰も我國を包圍したるが如き對勢を示して居るのは如何にも危機來を暗示するものでありまして、米國、蘇露、次いでは支那の行動を篤と認識し警戒する必要がありますことは申す迄もない。此と同樣に考へなければならぬ事は、如何にして我皇道を彼等に正當に認識せしむべきやであります。茲に我國民の偉にして重大なる使命があります。之れが爲には如何なる忍苦の試練でも皇國一心同體で欣然として貫徹打開に努むるより外、より大なる平和確立の途は無いと考へます。

而かも滿洲國樹立に當り爲したる決意と努力成敗の跡に鑑み、より强大な、より堅固な決意と努力を持續する事が最も重要なる事と信じます。

昨秋新聞紙上に、米國の全艦隊は本春太平洋を引揚げて太西洋岸に歸ると報じて居るに對し、一部の人達は米國の紳士的雅量の然らしむる所と云ひ、或は日米親善の一大曙光であるなどと賞讃の辭を放つて居りますが、それは皮相的な觀察であつて、其處にはもつと深刻な理由の存する事を熟慮しなければなりません。我帝國の艦隊でも一年も二年も船渠に入らず、修理もやらず、艦隊訓練に努めて居たならば、艦底には海草や蠣類が附着して、速力、燃料の經濟等に影響を來し兵器、機關にも相當修理を要する事故が出來、戰鬪能力の低下するは必定の事でありますから、米國艦艇とて此の支障から免れることは斷然出來ません。從來米國太西洋岸には、艦隊の根據地で、艦艇の建造竝に修理等に對する軍港施設が非常に充實進歩して居るに反し、その大平洋岸は未だ其の域には達して居りませんから、太平洋の水に浸つた切り二ヶ年も經過した米國艦隊は、良い加減に太西洋に里歸りをして今の裡に艦艇を大改裝し大新式化し、十二分に整備して、非常時に備へやうといふのであります。それが證據には、聽かて本年秋頃には再び大艦隊を太平洋に集中するのだと言明して居るではありませんか。外交政策に艦隊行動を使ふ所など、何時も乍ら警戒を要します。

聽て茲二、三年の內に華府及倫敦條約を清算すべき軍縮條約改定の會議が再開されますが、吾等は彼等に軍縮の眞精神を敎へなければならぬ。

彼等が彼等の艦越を維持し、東洋を彼等の物として控置せんが爲の手段として海軍々縮を使つたりすることに同意は出來ない。又無理强ひに承諾させられたりする事は最早絕對に出來ない。外から突いても叩いても我等の主張する比率平等の軍備と云ふのでなければ應ずる譯には行かぬ。而して又之れが爲には最後の實力戰に訴ふるも辭せない覺悟を定めて、今から準備を進めて置かねばならぬ。一九三六年になつて日米海軍比率が條約通主力艦、航空母艦六對一〇、巡洋艦以下七對一〇となる其の時に、慌てても既に遲いのであります。又巡洋艦は新造するのに三ヶ年はかかりますから、一九三六年に條約が、成立つたにしても、不成立に終つたとしても、其の時の勢力の儘、兩三年は續く譯で、今日から考へて見れば今後五、六年間は甚だ危險な時機である事が豫想されるのであります。從つて來るべき軍縮會議といひ、又現實の海軍力充實といひ、滿洲國の完成、東洋の平和確保に關し、我海軍が最も重要な關係に立つ事が理解せらるるのであります

此れが私の年頭に於ける感想の斷片であります。終りに際し在鄕軍人諸君の御健康と御奮鬪を祈ります。

謹賀新年

陸軍上等計手　松本寅次郎
陸軍歩兵曹長　小森治三郎
陸軍歩兵曹長　福井義一
陸軍歩兵曹長　青木八郎
陸軍砲兵軍曹　上田潔
陸軍歩兵軍曹　井本定治
陸軍歩兵曹長　北谷明義
陸軍歩兵曹長　森川嘉重郎
陸軍歩兵曹長　土井楢作
陸軍歩兵曹長　梅本康雄
陸軍歩兵軍曹　川相道男
陸軍々屬　北森芳藏

世界展望

○米露國交の復活

兩國復交の交渉は去る十一月十六日に終了して、米國は蘇國を承認する段取となつたが、その條件として內政不干涉、共產主義の宣傳禁止、信敎の自由等當然なる事項の外に、蘇國側の債務と往年米國側のシベリア出兵に關する損害要求とを孰れも放棄せんとする兩者の讓步が注目を惹かれる。日本としては兩國とは既に國交を結んで居り、兩國が握手して世界平和に盡さんとすることには喜ぶものであつて、遽に連衡し日本に壓力を加へやうなどゝ疑懼するものではない。今日の我が國民は過去の凡ゆる時代を超越して、如何なる難事をも排擊して邁進せんとする氣慨を有してゐるのである、故に兩國の國交復活に對しては大國民として衷心慶賀の意を表する併しながら兩者が孰れも軍事上日本に取つて特殊な關係にあることは、列國の均しく萬々承知の通りである、吾人は平然泰然たる裡に將來の兩國の擧動に關して注意を怠ることは出來ぬ。

○福建の獨立

福建省は新獨立政府を樹立せんが爲從來蠢動してゐたが去る十一月十六日胡漢民、李石曾兩元老の福州入によつて實現の段階に入り、二十日獨立宣言を公布するに至つた、由來南京政府は共產軍の討伐に失敗し、財政破綻も益々拍車をかけ、關稅や鹽稅も外債の擔保となつて外債の餘力なく、內債は十億を突破して民力も涸渴し、今や首班たる蔣介石の威力も失墜してゐる、斯かる時機に際して福建の獨立を見たことは、他の民國地方に反響なきを得ないであらう、由來支那の事情は朝に夕を豫斷し難い不可思議の國である、福建が投じた一石が果して如何なる波紋を畫くであらうか

○獨逸の聯盟脫退

獨逸は十月十四日國際聯盟及軍縮會議から脫退する旨を決定して歐洲各國を驚愕せしめた、露に滿洲國問題から日本に去られた聯盟は日の經つに從ひ當時の不明が判つて日本が戀しくなつて來た、といふのは聯盟の價値が日本を失つたことに依つて減少したからである、然るに今復た獨逸を失つて聯盟の威力や信望は頓に低下したことは歷然の事實である

獨逸に於ては國會總選擧と政府信任人民投票とを十一月十三日に決行したが、その結果はナチス獨裁が完成されたことは明白に國民全體が政府の對聯盟態度を是認支持するに至つたのである、そして今や伊太利迄が聯盟脫退に傾きつゝあるの報道は、聯盟に對する日本の見解の賢明であつたことを一層裏書するものである

春日神社々前於けるゝ奈良市旭分會入魂式（昭和八年十一月三日）

滿洲事變記念日に際し日本國民に愬ふ

松岡洋右

（前號の續き）

現に廟堂に在つて、責任の地位に立つてる人の間ですら、「あれは、氣の早い若い出先の軍人達が、何か癇癪を破裂さして起したのであらう、困つたことをして呉れたものだ何んとかして、早く鎭めんければならん」と云ふ位の氣分で、一向にこの事變の意義が分らなかつたのである、そして一面唯狼狽した、甚しきは非難さへした、このていたらくがそのまゝ歐米に映じた、そこで歐米人も認識を過つた彼等の認識不足は實は日本自身の認識不足の賜であり、反映であつたのである、當時ことをよく考へて見ますと、唯歐米人が認識不足ぢやと云ふて攻擊する譯には行かない、尤も歐米人の多くは、滿蒙はどこに在るかさへよくは知らんので、よし認識不足してゝも大した利害關係もなく、それは當り前である、私は十數年來、滿蒙の事情を說き、近年滿蒙は我が國の生命線なりと絕叫して來たが、日本國民全體としては中々認識を深めない、隱忍としてゐた、現に九月十八日事變が勃發するや狼狽措く所を知らず、又最初はその意義すら解せず——先程述べたやうな意義、即ち我が軍隊の行動は我が生命線を守るのである明治大帝の御遺策を奉ずるのであるといふ、この意義さへ判然とは分らなかつた、當時の日本政府にすら分らなかつたぢやないか、それが分らんで、狼狽し、さうして小刀細工で抑へようとしたではないか、かやうな正體がソツクリ歐米人に映じた歐米人の間でやはり軍人が一軍閥が惡い、これは一つ反軍閥の先生等を聲援してやつたら、日本軍閥が抑へられるだらう、又さうして抑へなければならぬと誤想した、無理はないではないか我が國の一部の政治家若しくは所謂有識者達は「御苦勞であつた」と彼等に謝意こそ表する義理がある、少くとも今日國民と共に彼等を不都合呼ばりするのは少しひどい、「冗談言ふものではない」と、言ふ方があるなら、アメリカの國務省筋から資料の多くを貰つて刊行せられてる書物があるから、それをお讀みなさい、人の名まで擧げて日本の軍閥跳梁を押へる爲めに、リベラリズムを助けるのが當時米國政府の方針であつたと云ふ意味の事が書いてあります、一國內で意見を異にすると、一方を外國が助けて、——それはその外國に都合のよい一方——一方をやつけようといふやうなことをするに不思議はない。これはあなた方能く氣を付けてお讀きたい、國の意見が分れますといふと、さういふ事が翌日の新聞に出て來る、國が危くなると、北條時宗が出て來る、神風が吹く、今時の者は「神風が吹く」といつたら、をかしいことを言ふと思はれるかも知らないが、實は僅かばかりの科學智識を以て總てが解けると思ふ人の方が私はをかしい、私は日本の國に神風があると信ずる、滿洲事變そのものは神風だ、聯盟脫退に至つたのも神風だ、更に六十年前に遡つて考へて見ても、あの難局を切拔けて明治維新の大業を全うしたのも神風だ、ひとり元寇の役だけではない、眞の日本人ならこの私の言ふことがわかる、そしてこの神風は主として日本人の血から吹き出るのである、「血」と私は繰返して言ふが、一體ブルドツクの血を享けないものは、如何にしてもブルドツクになる氣づかひはない、又チリアーの血の流れない犬をどう育てゝ見ても所詮チリアーになりはしない、日本人の血を持つてゐない者を幾ら敎育しても日本人になりつこはない、私は、御承知のやうに、日本精神を取戻せといつて叫んで居りますが、日本人の血を享けてる以上、それは望みがあるから言ふのであつて、日本人の血を持つて居らぬ者に「お前、日本精神を取戻せ」とか「日本精神を植えつけてやらう」と、私はそんな馬鹿なことは云はぬ

然らば私共は如何にすればこの日を本當に記念することが出來るか、この事變に際して爆發した日本精神、即ち大和魂——大和魂といふと、大學や高等學校の學生などは、何か黴の生えた言葉のやうに思ふか知らぬが、由來眞理といふものは古くても黴の生えるものでない、若し大和魂と云ふ言葉に黴が生えてゐると思ふ人は、實は自分の魂に黴が生えてることを知らねばならぬ、イギリス人にはイギリス魂あり、アメリカ人にはアメリカ魂あり、佛獨伊人皆然り、然るにひとり大和民族に大和魂がない道理がない、そり勝ちのものであると云ふ事を、序でだから申し加へて置きます。

これを要するに、滿洲事變のこの日が長く我が大和民族史上に、偉大なる光彩を放つであらうといふことは、斯樣な考へ方に依つて言ふのであります、これを一言にして言へば、天の攝理である、これを楔機として、日本國民は眞我の再認識に甦りつゝある、と斯ういふのである、更に言葉を換へて申しますと——滿洲事變の意義は何んであるかと、お尋ねになるならば——それは歐米追從、若くはデフイーチズムに對する、日本精神の發慣であり、反擊であるこの發慣、反擊に依つて日本は甦りつゝある、と斯ふ私は見て居るのである、併し、それは諸君、やはり血である、大和民族の血の中に、歐米への追從、デフィーチズム、又は退却といふやうなことを長くは許さない何ものかゞ流れて居るからである、この大和民族の血がこゝで以て躍つたんである、この事變に於ける我が將兵の躍動そのものは血が承知しないからであるが、更にこの躍動がこの血に異常なる反應を起さしめた、一時はいろ〳〵と誤解もし、又意義が分らなかつた人達も、遂にその自己の血が承知しないこの血が「やれ〳〵」といつて終に國民總立ちとなつて、我が軍の行動を後援するに至らしめたのである。

これを若し疑ふ人があるなら、我が二千六百年史を繙いて御覽なさい、さうしたら能く分るこの日本といふ國は——我が日本國民は、隨分支那かぶれをしたこともある、印度かぶれをしたこともある、吾々は子供の頃は、極樂と天竺といふものは同じものだと思つてゐた、今になつて見れば、極樂どころではない、否、よし極樂であらうが、私はあんな暑い所はいやじや、日本國民には偉い所があるが、又缺點もある、能く外國かぶれをする、御承知のやうに、漢學者などの中には、支那の事と言へば、牛馬も有難くなり、王道と皇道を穿き違へた論さへ盛んにした者がある、先人の書物を繙くと、王道と皇道をゴツチヤにしたり、又は丸で王道を皇國の憲法でゝもあるかのやうな事を書いてるのがあります、滿洲國は王道でやると云つてるが、それはよその國の事だから、私共の關知した事ではない、然し若し日本で王道を建てるなんといふ人があるなら、私は徹頭徹尾反對する、支那で王道といふのは、有德の者が天の命を受けて帝王となるのであつて、そこで禪讓放伐といふ問題が起る、堯舜禹は禪讓であつて湯武は放伐である、これを御覽になれば分る、日本ではさういふことは許さない然るに吾々の先祖は、すつかり支那にかぶれてしまつた時代がある、これは交通や通信が困難で、向ふの事情が充分に分らぬので、無暗と向ふのものを有難いと想つたのだ、あなた方も御存知のやうに、どこのお宗旨でも御本尊、御本體はめつたに見せない、あれは一つは餘り正體を見せると、「なんだ」といふことになり勝ちである人間の心理を考へての事だ、支那でも天竺でも、九州あたりからエツチラ、オツチラ小船で行く、通信の途は當時殆んどないと云ふ始末で、少數の人しか往來しなかつた、そこで少し何處か向ふの文明が優れてると想はれる點がある、御人好しで感服病の持主であるこの日本人、スツカリ感心する、さうしてこれにかぶれてしまふ、やみくも支那が偉く見えて、到底日本は及ばないと思ふに至つた、そして我が國體とその根源に於て絕對に相容れない王道にまでかぶれた、そんな學者、そんな人は一人や二人ではなかつた。

それから佛敎がはいつて來ると、ばかに天竺かぶれして殆ど日本の精神は佛敎の爲めに潰されかゝつた、これも亦日本人のこの短所、この性格乃至心理から來てゐる、然し有り難いことには我が皇室に危難が生じると、和氣淸麿が出て來る、國が危くなると、北條時宗が出て來る、神風が吹く、今時の者は「神風が吹く」といつたら、をかしいことを言ふと思はれるかも知らないが、實は僅かばかりの科學智識を以て總てが解けると思ふ人の方が私はをかしい、私は日本の國に神風があると信ずる、滿洲事變そのものは神風だ、聯盟脫退に至つたのも神風だ、更に六十年前に遡つて考へて見ても、あの難局を切拔けて明治維新の大業を全うしたのも神風だ、ひとり元寇の役だけではない、眞の日本人ならこの私の言ふことがわかる、そしてこの神風は主として日本人の血から吹き出るのである、「血」と私は繰返して言ふが、一體ブルドツクの血を享けないものは、如何にしてもブルドツクになる氣づかひはない、又チリアーの血の流れない犬をどう育てゝ見ても所詮チリアーになりはしない、日本人の血を持つてゐない者を幾ら敎育しても日本人になりつこはない、私は、御承知のやうに、日本精神を取戻せといつて叫んで居りますが、日本人の血を享けてる以上、それは望みがあるから言ふのであつて、日本人の血を持つて居らぬ者に「お前、日本精神を取戻せ」とか「日本精神を植えつけてやらう」と、私はそんな馬鹿なことは云はぬ

然らば私共は如何にすればこの日を本當に記念することが出來るか、この事變に際して爆發した日本精神、即ち大和魂——大和魂といふと、大學や高等學校の學生などは、何か黴の生えた言葉のやうに思ふか知らぬが、由來眞理といふものは古くても黴の生えるものでない、若し大和魂と云ふ言葉に黴が生えてゐると思ふ人は、實は自分の魂に黴が生えてることを知らねばならぬ、イギリス人にはイギリス魂あり、アメリカ人にはアメリカ魂あり、佛獨伊人皆然り、然るにひとり大和民族に大和魂がない道理がない、そ

してその魂を大和魂と呼ぶに不思議はない、而して私の云ふ日本精神即ち大和魂は世界に冠たる魂であると私は信ずる、それに氣がつかなければならん、吉田松蔭先生も云はれた、「儲とは艦と砲との謂ならず吾數島の大和魂」これが御維新をやつたのじや、明治の日本を產み出したのじや、それが又二年前の今月今日爆發して、私が先程から擧げ來つた幾多の事變を起し、又大革新を備しつゝあるのである

この精神に依つて、我々は躍進的にふん張らなければいかん、九月十八日に爆發した精神が、その後二箇年、滿洲に於て、上海に於て　天皇の下に、我が帝國の爲に、身も靈も捧げて、討死をさせ、犧牲にさせた、吾々が、この同胞達に感謝するの途は、この精神を引繼いで、それを益々發揮して、內に於ては一大革新を斷行し、外に向つては、滿洲國の完全なる發達を助け、先づ以て東亞全局の安定に邁進しなければならない、今は日支の國交が、滿蒙問題に關聯して一時懶んで居りますがそれは一時的の過程でありまして、私は滿洲國の發達と安定により、必ず日支の間も誤解が解け、中華民國四億の國人の多數も、我が國の眞意を悟る時が來ると信ずる、單り隣邦中國だけぢやない、世界を擧げて我が眞の精神を認めこれに共鳴し、これを歡迎する日が必ず來ることであらうことを疑はない、かゝる日が來なかつたら、世界の平和は來ないといふことを、今から斷言して置く、私はジュネーブではつりさう云つた、それは法螺を吹いたのぢやない、私はさう信じて居る、日本精神が本當に躍動し發揮されんで、人類に斷じて平和の來ないことだけをハッキリ世界に向つて云つて置く、而して私は、必ず歐米人もこの精神を悟る日が來ると云ふのであります、それには階段がある、先づ滿洲國を發達させなければならぬ、これが　明治天皇の御遺策である東亞全局の安定に向ふ鍵であり、徑行きである、その次に亞細亞民族の眞實の自覺更生が來る、それから偽りのない平和の世界をつくることに邁進しなければならん、實はそこまで貫いて行くことが、九月十八日に火蓋を切り、そしてその後尙ほこの精神の爲に——と云ふよりもこの精神を發揚しつゝ犧牲になつた人達とその遺族に酬ひ、感謝する所以である、斯樣に私は考へてゐるのであります

これは私は、空想とも、夢とも思つて居りません、却て物質文明にとらはれて、私の謂ふ西洋かぶれの人——失敬な言分だが、あなた方の中にも、さういふ人がある、それは無自覺的に、知らず識らずさうなるのであるこれ等の人から見ると、これは夢見たいである、空想見たいだ、それは日本人になり切つて居らんからだ、然し日本精神を眞に取戻した人には、私の申上げて居ることは、夢でも空想でもないといふことが分ると私は信ずる、長くも、聯盟脫退の通告に際して、御承知のやうに渙發せられた詔書の中に「大義ヲ宇內ニ顯揚シ」とある、これなんである、御維新の時に、我が國士の中に「大義を四海に布く」と云つた人がある、彼は決して法螺を吹いたのではない、その後西洋かぶれした日本人達が——政治家初め、實業家でも、學者でも、その大義を四海に布くといふ精神を忘れた、恐らく忘れたのではない、そんなことは法螺のやうに聞えて、途方とてつもないことのやうに思ひ出したのであらう、再びこゝに聯盟脫退通告の瞬間に長くも　今上陛下から「大義ヲ宇內ニ顯揚シ」と宣ふた事を繰返へす、我々はこの大御心に甦らなければならん、私は、決して反動的にものを考へてはゐない、世界何處でも良いものがあれば取つて來るが宜しい、長所は皆取つて來るが宜しい、私の云ふ日本精神とは、日本だけに限るものではない、世界に通用するものである、世界を被ふものである、世界の長は飽くまで取つて來るが宜しい、唯自分の魂を置き忘れるな、と斯う云ふのである

斯ういふやうに考へて參りますと、九月十八日は、私が先程申します如く、單り我が民族史上に一大劃期的光彩を放つといふことに止らず、更に全極東史、亞細亞史、否、世界全人類史上に遂に燦爛たる光輝を放つ燈明臺として、長く仰がれるに至るであらうと確信するのである、これは決して大風呂敷ぢやない、こゝまで徹底しなければいかんどうか、この日をお互ひに眞に記念しようといふのなら、先程から繰返へして言ふやうに、日本精神に甦つて、左顧右眄、他國、他人の顏色のみを見ることは止めて、須らく我が國民は伊勢の大廟の神鏡の前で、自分の姿を見直し、自分の姿勢を正し、自分の身を淨めて、さうして出直さなければ駄目である、私は徒らに强がりを云ふのではない、自分の身體を淨め、眞の日本精神に甦つて、堂々と世界の大道を濶步せいと云ふのだ、自ら反省して、我れを正さず、私共は決して日本精神を世界に徹底さすことは出來ない、どうか、この點諸君と共に、それを眞劍に考へて私はやつて行きたい、それが、この滿洲事變以來こゝに二箇年、我が將兵が身命を拋ち、幾多の人が護國の鬼と化し、その遺族は苦しんで居る、これ等に酬ひ、又これ等に感謝する所以であると、斯樣に私は考ふるのである、どうか、內は小異を捨にゝ大同に就きさうして大革新をやる、外は私が先程から述べて居るやうに、その大使命に邁進する、これが私が國民に懇へお願ひする所以であります、どうか斯やうな意義に於てこの九月十八日を長く記憶し、さうしてその精神に甦つて戴きたい

時間も餘りありませんからまだ云ひたい事もありますがそろ〳〵この邊で止めなければなりますまい、がこれだけ申上げて置きたい、我國は非常な國難に向ふ五箇年、頭を突込んで行くのであります、どえらい國難に遭遇する、大國難とは何であるか、喬木風强し、木が高くなればなるほど、風が强く當る、そんなことは當り前だ、國が偉うなればなるほど、國難は一層加はる、國難が嫌ひならば、國を强くするより外に仕方でない、そんな事はしたくも出來ない日本は、これから有史以來の大國難に向ふ五箇年出つくはすのである、併し同時に最大躍進時代を劃するのであらう

これに向ふには、先程から述べた日本精神に甦り、そして七生報國——七度生れてこの國に奉公しよう、これしかありません、

昭和九年海軍志願兵徵募檢査執行日割表

吳鎭守府

縣	檢査地	檢査區	檢査人員	曜日	月日
奈良	第十三班				
		出發		水	二一
				木	二二
		奈良、添上、生駒、山邊	78	金	二三
		櫻井、磯城、宇陀	35	土	二四
				日	二五
		高田、南葛城、高市、北葛城	40	月	二六
		上市、宇智、吉野ノ一部	80	火	二七
		十津川、吉野ノ一部	17	木	二九
				水	二八
				金	三〇
		歸舟	二五〇	土	三一

（一一日）　奈良　三月

注意

一　市、區役所、町村役場ハ志願者ニ對シ檢査前日必ズ入浴シテ身體ヲ清淨ニシ耳ノ檢査ヲ完全ニ行ヒ得ル樣耳垢ヲ除キ口中ヲ清潔ニナシ且定眼スル樣注意ヲ與ヘ置クコト

二　志願者檢査場ニ參集時刻　一月、二月午前八時十五分　三月午前七時四十五分

三　志願者ニ對シテハ學術ノ豫習ヲ遺漏スルト共ニ懸垂檢査ニ於テ例年相當ノ不合格者アルヲ考慮シ檢査前之ガ豫習ヲ爲サシメ置クコト

四　志願者ニハ鉛筆、辨當、風呂敷（身體檢査ノ際被服ヲ包ムタメ）ヲ持參セシムルコト

分會の活動

富雄村分會

十一月十六日富雄村二名分會員中本君勤務演習召集中なるにより二名分會員は家事手傳として十六名は農繁期應援を實施し十一月二十日より三回に亘りて退營者の歡迎を盛大にす

政治村分會

十一月二十一日村衛生行事應援として蛔蟲驅除のまくりたき出しに分會員出動す十一月三十日歩三八よりの除隊者を歡迎す十二月十日畝傍建國會館支部大會に分會長以下十二名出場す

櫻井町分會

十二月八日同町役場に於て役員會開催す十二月十日支部大會に分會長以下二十名出席す

下北山村分會

十一月二十七日本村池峯福本旅館に於て役員會を開催し分會基本金大同銀行預金拂出停止に關する件等を討議す

下田村分會

十一月二十日當村出身現役兵四氏退營に際し分會員全員之が出迎へをなしその勞を犒ひて散會す

秋津村分會

十二月七日同村役場に於て十二月十日支部總會參列に關する件等に付討議す

高田工場分會

十一月十日當工場講堂に於て國民精神作興に關する詔書奉讀、分會長訓示並に河北氏より航空に關する講話等を聞く、十一月二十二日當場より入營中の森高君退營出迎へ入會式を執行す、十一月二十三日古賀中佐より時局に關する講演あり盛會裡に散會す

榛原町分會

十一月八日同町役場に於て昭和八年度壯丁に對し時局の重大さを肝銘せしめ併て責務重大さを自覺せしむる如く最も嚴肅裡に現役兵及補充兵、諸書傳達式を擧行す、十一月二十日三十日の兩日に亘りて滿期除隊兵歡迎を實施す

法隆寺村分會

十二月五日午後六時分會事務所に於て昭和八年度壯丁に對して現役兵及補充兵證書の傳達式並に入退營兵親送茶話會を開催す

三輪町分會

十一月十日精神作興に關する詔書奉讀式を執行す、十一月十四日當町に於て崇神天皇奉讚會執行せらしより分會員全員參拜せり、十二月二十五日同町役場に於て本年度受檢入營壯丁の送別會を開催す

片桐村分會

十一月二十日、二十一日、二十四日、二十五日、同三十日の兩五日間に亘り當村出身現役兵滿期除隊に際し小泉驛迄歡迎し其の勞苦を犒ひて散會す

波多野村分會

十一月二十日同村役場に於て本年度壯丁に對し現役兵及補充兵證書の傳達式を執行す、十一月二十三日同村小學校に於て除隊兵歡迎會を開催す

會員の寄附金募集に關し
本部より左記の通知あり

最近時局の刺戟に依り各地方に於て國防献品をなし、或は國防協會の設立を見つつあるが本會々員中にも本會の名義又は會員たるの資格を以て此等に關する寄附金募集の爲金錢等を强要し國民の怨嗟と疑惑とを招きつつあるもの有之やに聞及び遺憾に存する次第に候斯くては在鄉軍人會に對し國民の信賴を失ふの虞ありと存ぜられ候間會員一般に注意を加へ充分地方の實狀に適する樣御指導相成度依命及通牒候也

追て本件に就ては監督官廳よりも注意有之候次第に付爲念

登錄
陸海軍御用達
清涼劑福美丹
外優良賣藥
十數方製劑卸
商標
キ、メで
惚れられ
印ですかれ
同じ召すなら
ふくやの藥
高市郡高市村大字東井上（中井宗）
ふくや藥房

陸軍御用達
各國時計
貴金屬
多賀時計店
奈良市一清水町
電話一）九一番